回顧：「医学図書館」 総合目録 MeSH 英和版

板 橋 瑞 夫*

I. はじめに

「医学図書館」（以下、本誌）の編集委員として従事したのは 10 巻から 13 巻（1963－1965）までである。そして 2002 年思いも寄らない編集顧問の委嘱である。実に 40 年を経過してしまっている。この間「医学図書館」に携わったことはない。

編集委員といえば医学雑誌総合目録の編集委員も長いし印象深い。「医学図書館」にはこの目録の欧文編 6 版の記録はないし、また外国雑誌編 7 版はトリミング「医学雑誌総合目録外国雑誌編第 7 版編集委員会」があるだけである。「医学件名標目表」に対しても同様記録が残されていない。これら何れもの編集委員としての責めを負わねばならぬと思うようになった。

II. 編集委員そして編集顧問のこと

「医学図書館」第 10 巻 1/2 号（合併号・1963）に「医学図書館」今後の目標」として津田編集委員長が述べられている。その中で第 10 巻から編集の責任を任された私たちと言われているが、私もその編集スタッフの末席を汚すことになった。浅学非才新参者にもかかわらずであった。お恥ずかしい次第ではあるが特別な抱負を持っていたとは言えない。ただただ先人に追いつけ、追い越せという闘志だけは持っていたつもりである。整理・割付を担当していたが、言うまでもなく当時は手書き原稿であったので、判読に苦労したのを覚えている。

4 号におこがましくも編集後記を書いているので、當時を偲んでいただく思いで引用させていただく。「6 月に開催された国際会議の模様を第 2 の特集としました。筆者それぞれの持ち味が発揮されて、夜長にふさわしい好個の読み物と思われませんが、如何でしょうか。国際的

話題はともかくわが医学図書館の 8 月は、西に神戸で、医学薬学図書館合同の第 8 回講習会が上旬に、また下旬には例年秋に開かれる総会が今年は北国の弘前で、といった具合で大きな行事が二つ重なって、将に東奔西走。なおこれらの報告については順次掲載の予定です。またまた、原稿のお願いになりますが、とくに難しくお考えにならずに、軽なお気持ちでペンを執っていただき、どうぞご投稿をお願い致しますと思います。」

3 年経過した 12 巻（1965）4 号の編集後記に、編集委員の一部交代に際しての感謝の言葉「1963 年 2 月、新しい編集委員スタッフに加わって内容のある雑誌を目標に出発したものの、以来 3 年委員長一人にひたすらオンブした形で終始し、充分のお役にたてなかったのは残念に思います。なお、無理なテーマでしかも半ば強制的な原稿依頼にもかかわらず、進んでご投稿いただいた加盟館の皆様のお力添えに対し、編集部の一員として心から感謝致します。堀・今村・板橋各委員」を残して退任した。

編集顧問については最初の職種のことであるので依頼の役割をそのまま転記する。

1. 編集上の相談にのる。

- a) 特集題目の決定や著者の推薦、選定のアドバイスをする。
- b) 投稿論文に審査が必要かどうかの相談にのり、もし必要な場合レフリーを推薦する。
- c) 雑誌全体の方向性や内容について、アドバイスをする。

2. 任期は 2 年とする。

3. 委員会に出席して討論を聞き、必要に応じてアドバイスをする。

とにかく任期 2 年を全うする所存である。

III. 医学雑誌総合目録編集委員のこと

「医学雑誌総合目録和文編第 5 版」（以下、5 版）か

*Mizuo ITABASHI：〒181-0002 東京都三鷹市牟礼 3-11-10.

（2004 年 1 月 24 日 受理）

ら「同欧文編第6版」(以下、6版)そして「同外国雑誌編第7版」(以下、7版)といった総合目録の編集作業を体験してきた。和文編は純粹に手作業で、作業の開始から編集作業完了まで1年8か月。欧文編6版からはコンピュータの導入による作業となった。調査期日から刊行年月まで6版1年9か月。7版では2年10か月を要している。6版から7版では収録誌数が9,230誌から16,125誌と大量に増加している。それなりに作業量が増えている。この増加と、原稿を渡してから時間の経過との相関は妥当かどうか。単純にコンピュータを使えば早くなると思われるが、従来の即ち印刷所との対応とは全く違った複雑怪奇な現象が現れた。それはデータがコンピュータに入る前か後かの処置に問題があったのか。とにかく機械を使えば早く作業が終わるというのは妄想であると実感された。本誌32巻「トリミング」欄に「医学雑誌総合目録外国雑誌編第7版編集委員会」とあって、下村委員長がいみじくも述べている。「・・・肝心の委員会の仕事の進み具合ですが、まだ全行程の半ばに達していません。あの目に見えないところで仕事をするコンピュータ様のセイにしておきます。コンピュータ様から反論があれば本誌に掲載をお願いするつもりです。」¹⁾このとき1985年。刊行は1987年であった。

1. 和文編第5版

1970年、従来の総合目録の作り方即ち加盟館は、1枚の標準カードに誌名・書誌事項・所蔵データを記入し、誌名のABC順に一括して提出する。編集委員会は、この一つの館の誌名のABC順を解体、全体を通しての誌名のABC順、一つの雑誌の中は所蔵館の地区別に再編成し、この仕分けの終わった原稿カードを誌名の頭文字順に数組ずつまとめて7グループとし、各委員の分担を決め、これを各自の館に持ち帰って印刷原稿の作成を開始し、1年9か月を経て刊行の運びとなった。この5版に関しては本誌19巻に詳細な報告がある。

2. 欧文編第6版

「医学雑誌総合目録欧文編第6版」に「編集経過」と題して報告したが、これを基盤にあまた注釈を加えながらやはり本誌に書き留むべきであると判断した。

1974年1月：文部省、国際医学情報センター、紀伊国屋書店、三者による「「学術雑誌総合目録自然科学欧文編」の編集、製作、出版等に関する覚え書き」の締結があった。

1974年10月：「学術雑誌総合目録自然科学欧文編」

(以下、文部省版)の規約に機関別編集の項があり、6版を適用、刊行することが第45回日本医学図書館協会総会で可決された。この頃は総合目録の刊行なども総会協議題として提案されていた。

1975年7月第1回「医学雑誌総合目録欧文編第6版出版委員会(以下、出版委員会)：紀伊国屋書店による文部省版に対する機関別版の説明。

1976年2月：文部省版収載誌のうち、加盟館所蔵誌についての書誌事項等の調査、確認作業の開始、同時に各館への質問、確認、回答依頼状の発送開始。

1976年5月第9回出版委員会：所蔵校正リスト(文部省の本版、補遺版から、各加盟館別に所蔵データを抽出、これを各館に配布し、校正を依頼していたもの)の回収状況(提出期限5月31日)到着館40館、未到着館42館。文部省版収載誌から除外すべきものを審議。

1976年6月第12回出版委員会：各加盟館に於いて所蔵校正の終わったリストの点検校正作業を東京女子医大にて集中的に実施。2週間。

1976年10月第16回出版委員会：所蔵校正リストと文部省版の書誌を点検校正した書誌リストとの突き合わせによる初校出来あがる。所謂コンピュータによる総合目録の初校作業を東京大学にて、約1ヶ月集中的に実施。

1976年12月第17回出版委員会：再校作業開始に当たり、注意事項、例えば、巻次-収録対象年-発行年の場合、収録対象年は記入しない等々。再校作業は各自分担を持ち帰り、集中作業とせずに実施。

1977年6月第19回出版委員会：東京医大にて集中三校作業に入る。約1ヶ月。回答葉書の最終処理、除外タイトルの確認、最近の変遷タイトルの確認、キリール誌翻字法確認等々。

1977年8月：補足作業。東京医大にて、集中四校作業に入る。約3週間。文部省版から協会版への移行にともなう形式の変化による訂正の確認。この間、機械ミスによる再打ち出しの校正をも実施。

1977年9月：最終校正出張。除外すべきタイトルの削除確認等の校正。2日間。

1977年10月：刊行。

所感として、従来の所謂マニュアル版から文部省版へのとまどい、コンピュータ処理上のスケジュール優先などのややもすれば不可抗力的な作業工程。それによってのマニュアル時より以上の精神的、肉体的な負担の重い作業であった。文部省版という国家の要請に協力する面もあったが機械で処理するには、あまりにも早急、あまた検討不十分という実感もあった。

3. 外国雑誌編第7版

この作業に入る前に、前者の轍ではないが本誌29巻に「医学雑誌総合目録第7版編集を前に—医学雑誌総合目録、現行医学雑誌所在目録、医学洋書総合目録の関連について」²⁾という稿を執筆し、第6版時の経験をふまえての自戒の念を込めて自身に言い聞かせておいたのであるがコンピュータ魔術のためにひとたまりもなく危機は現実となってしまった。出来あがるまでは、さながら人事を尽くして天命を待つ心境であった。出版経過などを本誌に残していないので出版委員会報から随時抽出して報告に代えさせていたきたい。

第34回出版委員会(1983年5月26日)：この6月にも学術雑誌総合目録(以下、学総目)M/Tファイル使用の許可申請書を文部省に提出したい。

第36回出版委員会(1983年7月22日)：学総目M/Tファイル利用申請書を7月18日文部省に提出。

第39回出版委員会(1983年12月16日)：学総目M/Tファイル利用許可が11月30日に下りた。

第43回出版委員会(1984年8月24日)：8月3日付けで加盟館宛「データ記入要領」「所蔵データ校正リスト」「新収誌予備版」その他、必要な資料送付。校正作業を始め編集委員確保のため医学雑誌総合目録外国雑誌編第7版編集委員会の設置を決定。

第45回出版委員会(1983年11月29日)：第7版編集委員会委員の選出を都内加盟館数館に打診の結果出版委員を含む10名を決定。なお、「医学雑誌総合目録外国雑誌編第7版編集委員会」は第1回を1983年12月24日に開催、編集作業についての作業スケジュールを検討して作業を開始した。作業の詳細については、JMLA会報を参照されたい。

第57回出版委員会(1987年5月8日)：4月23・24日に棒組みリストの集中校正を実施。4月28日までにすべて終了。5月14日版下の総点検実施の予定。

第58回出版委員会(1987年6月29日)：5月21日版下最終校正終了。6月5日文部省教科書管理課訪問、著作権の手続き終了。

6月15日刊行。

IV. 医学件名標目表のこと

MeSH=Medical Subject Headings1978日本語版は、公衆回線による機械検索が開始される事態に対応するた

めに誕生したのである。検索はしたいが、機械の操作も出来なければ検索用語も充分理解出来ない。そこで機械操作が出来る図書館員が必要になる。となると検索用語MeSH日本語版が必要になる。ということで日本語版のみならず和英版、カテゴリー版も合わせて刊行された。

MeSHの制定は1960年であるから、かなりの空白がある。これはいろいろな点で翻訳の必要がなかったのかもしれない。ところで、この日本語版の作成は善きに付け悪しきに付け機械の力を借りないかぎり刊行不能。われわれの手で出来ることは毎年の新語の翻訳そして校正作業しかない。新語は一語ごとにシートに原語そして訳語、典拠、優先順位などを記入していったのである。

1978年版以後数年は諸般の事情により刊行が中断されたが、やはり復活の要請があって1989年に英和そして和英版を刊行した。1991年1992年は、英和・和英・カテゴリー版。1993年版は、英和・和英・カテゴリー・ガイド版。1995・1997・2000年といずれも英和・和英・カテゴリー・ガイド版を刊行して終えた。むしろ終わらざるを得なかった。それは要不要ではなく経費の問題であると聞いている。かくしてわれわれと、科学技術振興事業団、紀伊国屋書店とによる「医学件名標目表」の刊行を終えた。

V. 終わりに

「日本医学図書館協会60年略譜」³⁾によれば、丸善の援助を受け機関誌「医学図書館」(1954年1月30日)創刊とある。「医学図書館」執筆規定2003年3月改訂によれば原稿は、・・・やむを得ず手書きの場合はA4サイズの横書き400字詰め原稿用紙を用いるとある。「学術雑誌総合目録」にしても冊子体刊行以後総合目録データベースWWW検索サービスでとある。この50年はいかにも重い。「いまだ覚めず池塘春草の夢、階前の梧葉すでに秋声」である。

参考文献

- 1) 下村政光. 医学雑誌総合目録外国雑誌編第7版編集委員会. 医学図書館 1985;32(2):212-3.
- 2) 板橋瑞夫. 医学雑誌総合目録第7版編集を前に—医学雑誌総合目録、現行医学雑誌所在目録、医学洋書総合目録の関連について. 医学図書館 1982;29(2):166-70.
- 3) 日本医学図書館協会将来計画委員会・協会史編纂部. 日本医学図書館協会60年略譜. 東京:1987.